

日 時：平成29年7月26日（水）13：30～15：50

場 所：花川北コミュニティセンター

【 当 日 の 内 容 】

- | | |
|-------------|--|
| 13：30 | 開会 |
| 13：30～13：35 | 主催者挨拶 （石狩市 総務部／及川 浩史 部長） |
| 13：35～14：00 | 策定会議の目的と進め方 （事務局／(株)ドーコン） <ul style="list-style-type: none">・ 本日の流れ・ 地区防災ガイドの振り返り・ 災害情報の説明・ 地区防災ガイドの見直し方針・ 策定会議の進め方 |
| 14：00～15：30 | グループ別意見交換 <ul style="list-style-type: none">①避難ルートについて②防災の心得について |
| 15：30～15：50 | グループ別意見の発表 |
| 15：50 | 閉会 |

Aグループ（新港中央、東、西、南）

○意見概要

【避難ルートについて】

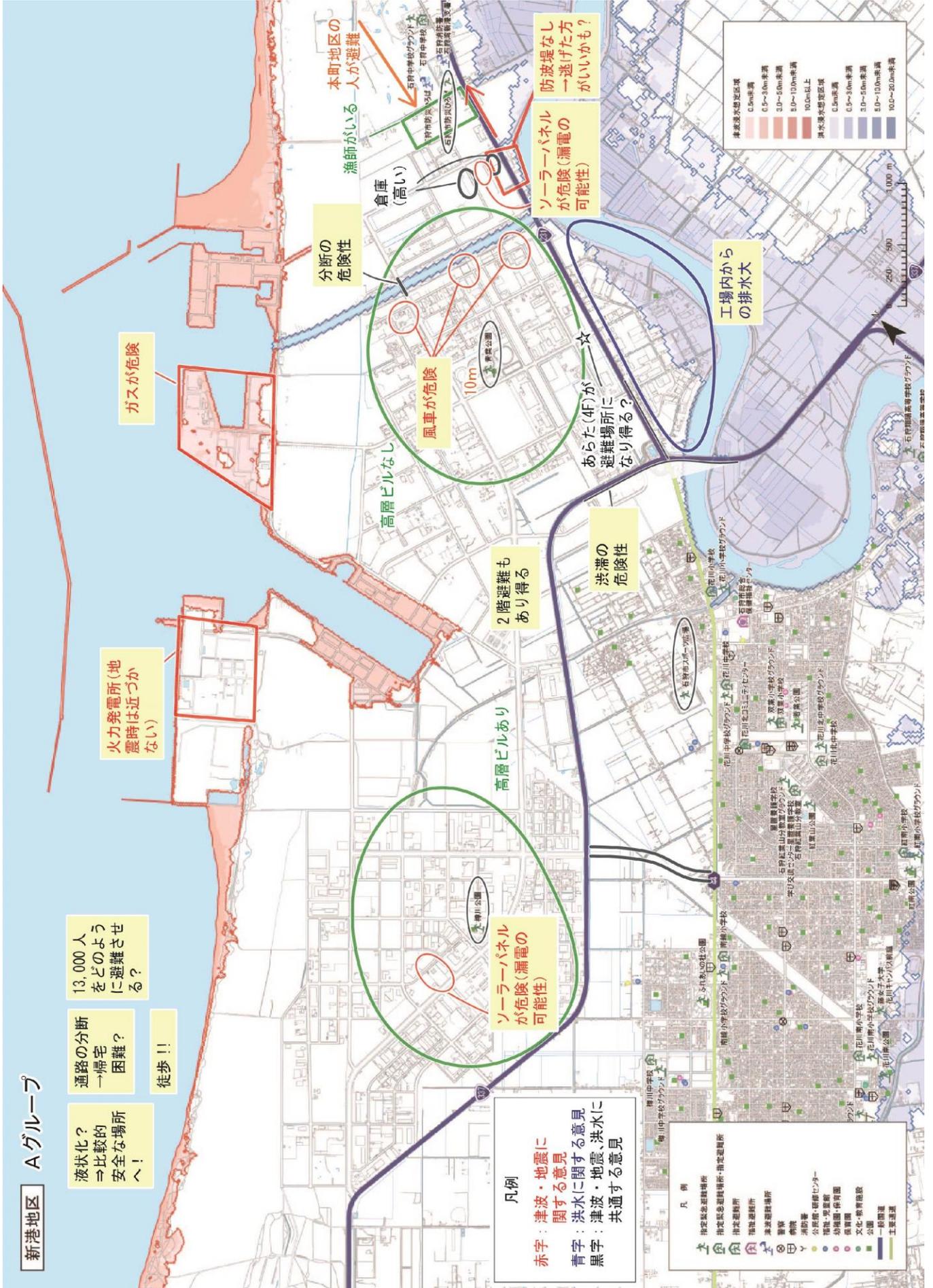
- 基本的には社屋に避難する。ただし、生振方面の新港南1丁目付近は、洪水時に工場の排水システムがあふれる危険があり、より洪水の被害が大きくなる可能性があるため、早めに避難するのがよいのではないか。
- 樽川公園の近くのソーラーパネル、青葉公園近くのソーラーパネルは発災時に漏電の可能性がある。また、生振から新港埠頭へ続く用水路沿いに風車があり、倒壊の危険がある。

【防災の心得について】

- 避難訓練の参加者数を増やし、発災時を想定した訓練にすることがよい。
- 防災無線が聞こえない場合があるため、代替の情報取得方法を確認すべきである。
- 花川等、他地区との連携を図っていくことが重要である。例えば、帰宅困難時には他地区の指定避難所に受け入れてもらったり、また各社の安全が確保できた段階では他地区に労働力を援助するとよいかもしれない。



○避難ルートに関する意見



○避難ルートに関する意見交換結果(全意見)

- 液状化?⇒比較的安全な場所へ!
- 通路の分断→帰宅困難?
- 徒歩!!
- 13,000人をどのように避難させる?
- 高層ビル
- 火力発電所(地震時は近づかない)
- 高層なし
- あらた(4F)が避難場所になり得る?
- ガス
- ソーラーパネルが危険。漏電の可能性
- 10m
- 2階避難もあり得る
- 渋滞の危険性
- 分断の危険性
- 2000名
- 倉庫(高い)
- 風車が危険
- 工場内からの排水大
- 漁師
- 防波堤なし→逃げた方がいいかも?
- 会社

○防災の心得に関する意見交換結果(全意見)

【課題】

- 実行性(現実に即する)
- 皆に周知できていない

【課題に対する対策】

- 訓練(パニックに備える)

【訓練に対する留意事項】

- ごく一部で訓練している
- 防災訓練の役割(消火など)
- 高齢のパート、お客さま
- 避難に関する声・アナウンスが聞こえない→光等による周知
- Jアラートの情報を聞けるように(作業中に)
- 171(イナイ)ダイヤルの周知

【その他】

- 備蓄品の用意は4社中1社
- BCPの策定は4社中2社
- ラジオを中心とした情報収集が大切
- 誰かの指示→責任とれない→個人の判断が大切
- 災害時の心得として、新規に「地域との連携(花川等へ助けに行く)」を入れたほうがよい

Bグループ（新港中央、西、銭函）

○意見概要

【避難ルートについて】

- まずは樽川公園に避難し、その後樽川中学校や南線小学校に移動するとよいのではないか。新港は花川方面の道路が不足していたが、整備予定ということで一つの避難ルートになり得るのではないか。
- 工業地帯である新港は、車での避難が基本になるため、車避難のルールを確立すべきである。
- どこに避難するか等の新港全体のルールが決められていないため、発災時に新港全体でどのように動くかを定めるべきである。

【防災の心得について】

- 新港の特徴に即した津波避難などの訓練をするとよいのではないか。
- 避難場所を会社で決めるとよいのではないか。
- 帰宅困難時の対応や家族との連絡方法を確認すべきである。



○避難ルートに関する意見交換結果(全意見)

- 一次的な避難場所（屋外）
- 冬の避難場所がない
- 車の避難ルート確認
- 津波想定訓練を実施
- 避難場所を設置する
- 海からの高さの標示が必要
- 近くの高い建物に避難
- 道路のルートを縦につなぐ
- 各社災害時、組織体制の有無 有～4 未
～0
- 一次的な避難場所（屋外）
- 高い建物がない

○防災の心得に関する意見交換結果(全意見)

【訓練・準備に関する意見】

- 避難訓練に備える！→実施できていない
- 冬の訓練が大切
- DVDがあれば
- 宿泊などの備蓄品の用意
- 応急手当講習
- 地震の際、情報収集ができる体制を考えた
- 屋内の避難場所を決めておく
- BCP 策定済みは0社、未策定が4社

【その他】

- 乗り合わせで避難（車）
- 市役所で対応（指示）

○当日の写真



訓練で備える

② 避難方向を決めておく！

③ 防災連絡網の整備！

④ 備蓄品の用意！

⑤ BCPの策定！

⑥ 帰宅困難者への対策！

災害時

① まずは情報収集！

② 広い場所や一時避難場所へ！

③ 津波情報が出たら、海から遠く高い場所へ！

④ 乗り合わせて避難を！

⑤ 帰宅困難時は待機！

新港地区 防災の心得

○津波の高さを確認する

○高層ビルは危険

○避難場所を事前に確認

○BCPの策定

○会社ごとに連絡網を整備

○地震発生時の対応

○帰宅困難時の対応

○DVDの作成

○会社ごとに連絡網を整備

○避難場所の確認

○BCPの策定

○会社ごとに連絡網を整備

○地震発生時の対応

○帰宅困難時の対応

○DVDの作成

B

Cグループ（新港西、南）

○意見概要

【避難ルートについて】

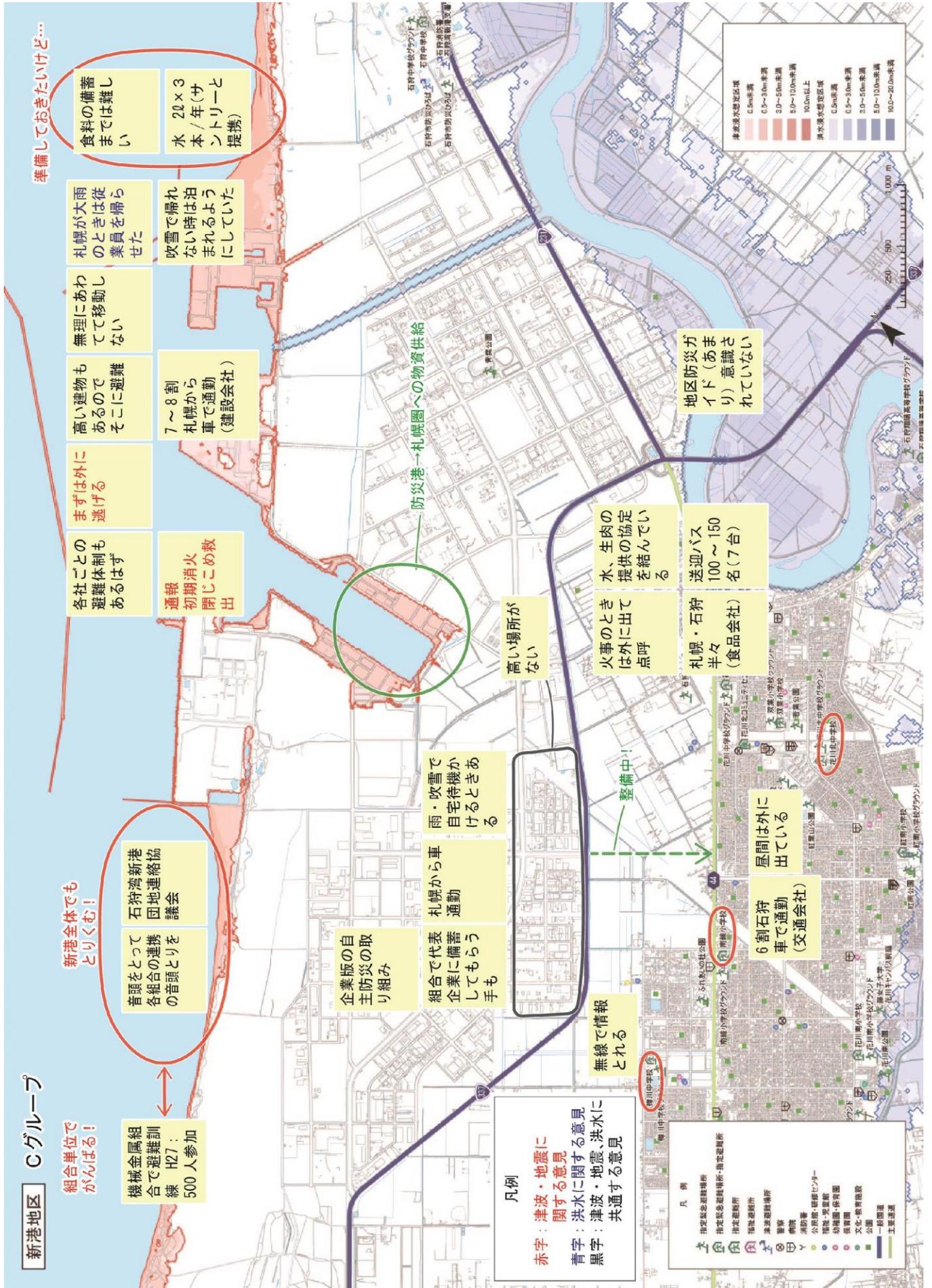
- 機械金属組合では、組合企業合同の避難訓練を実施している。各社ごとに避難体制はあると思うが、企業組合ごとに合同で防災訓練をすることができるがよい。また、新港全体の団地連絡協議会もあるので、そこが音頭をとって各企業組合が連携した取組をリードできるとよい。
- 札幌圏からの車通勤者が多い。車避難については、本当に必要かどうか判断するべきである。地域内に高い建物があるので、一時的にそこに避難するなど、無理にあわてて移動しないことが重要。
- 飲料企業と提携して水の備蓄を行っている。食料の備蓄までは行っていないが、（市と防災時の協定を結んでいる）各企業が提供できる備蓄品を集めれば相当なものになる。

【防災の心得について】

- 各社でできることを分担し、地域で助け合えればよいのではないかと。例えば、交通系の会社が無線で情報収集し、その情報を市に提供し、市から地域に周知する等があり得るのではないかと。
- 各社で取得した情報をどのように職員に周知するかを決めるとよい。



○避難ルートに関する意見



○避難ルートに関する意見交換結果(全意見)

- ・新港全体でもとりくむ！
- ・音頭をとって 各組合の連携の音頭とりを。
- ・組合単位でがんばる！
- ・無線で情報とれる
- ・機械金属組合で避難訓練 H27：500 人参加
- ・通報 初期消火 閉じこめ救出
- ・各社ごとの避難体制もあるはず
- ・まずは外に逃げる
- ・6割石狩 車で通勤
- ・組合で代表企業に備蓄してもらおう手も
- ・自主防災の企業版？
- ・7～8割 札幌から車で通勤
- ・高い建物もあるので そこに避難
- ・昼間は外に出ている
- ・札幌から車通勤
- ・無理にあわてて 移動しない
- ・雨・吹雪で自宅待機かけるときある
- ・整備中！
- ・吹雪で帰れない時は泊まれるようにしていた
- ・札幌が大雨のときは従業員を帰らせた
- ・札幌・石狩 半々
- ・火事的时候は 外に出て点呼
- ・高い所ない
- ・水 2ℓ×3本/年（サントリーと提携）
- ・食料の備蓄までは難しい
- ・送迎バス 100～150名（7台）
- ・水、生肉の提供の協定を結んでいる
- ・準備しておきたいけど。。
- ・地区防災ガイド（あまり）意識されていない
- ・防災港→札幌圏への 物資供給

○防災の心得に関する意見交換結果(全意見)

【情報収集について】

- ・無線機で情報収集→市に流す
 - ・吹雪などちょっとした所から連絡網を
 - ・組合単位で無線連絡できる体制があるとよい
- ⇒連絡体制を密に！吹雪時など普段から活用→いざというとき役立つ！

【その他】

- ・避難訓練で消火器の使い方の学習
- ・普段から目にふれるように
- ・普段から練習
- ・普段からのまとまりが大切
- ・合同訓練も

Dグループ（新港中央）

○意見概要

【避難ルートについて】

- 危険物を取り扱う企業が多く、危険物を残して逃げられないため、全職員が社外へ避難するのは難しい状況である。
- 高さ 10m以上の社屋が多い地区であるため、遠くへ逃げるのではなく、社屋の上層階への避難するとよいのではないか。
- 指定緊急避難場所は遠く、特に冬季では避難できない可能性があるのではないか。
- 新港地区に指定避難所がないため、避難できる施設を指定してほしい。

【防災の心得について】

- BCP を策定するとよい。
- 発災時には遠くに逃げるのは難しいため、高いところに逃げるのが基本になるのではないか。
- 燃料を運ぶタンクローリーや港に停船している船をどのように避難させるかが課題となっている。
- 発災時の情報取得方法が課題である。
- 企業間の災害情報の共有や迅速な防災行動に向けて、防災行政無線を設置する予定である。



○避難ルートに関する意見交換結果(全意見)

- 食品会社 提供できないか
- 建物 2階
- 協議会 3社
- タンクローリー
- 避難所として使えないか?
- 指定した方がいいのでは?
- 札幌石狩方面
- タック 屋上 11m
- 避難 最低 10分
- 船への対応
- 管理棟 3階
- 大津波時 出社しない
- 混雑
- 事前決める(会社間)
- 30分以内だと屋内
- 防災無線の設置
- 管理人 最低1名残す
- 垂直避難
- 吹きだまり

○防災の心得に関する意見交換結果(全意見)

【平常時】

- 非常用発電機(燃料)
- 避難者の対応難しい
- 港湾 BCP できた→今後地区別
- 自販機(災害用)
- 社員用の備蓄はあり→お客様用の備蓄
- BCP を社員に周知

【平常時災害時共通】

- 防災無線設置

【災害時】

- 津波避難について、選択肢が少ない
- 安否確認
- 情報収集に関しては、具体的な方策が必要
- 情報手段の確認が必要
- 情報収集(何を収集したらよいか?)
- 備蓄も含めた自社員以外の対応(避難者対応)
- 車の乗り合わせは難しいのではないか。

○当日の写真



平常時

- ① 避難訓練で備える!
想定にとらわれず、日頃から避難訓練を実施して、災害時に備えよう。
- ② 避難方向を決めておく!
車で避難する場合、渋滞を避けるために、手前エリアごとに避難方向を決めておきましょう。
- ③ 防災連絡網の整備!
企業間で災害情報を共有し、迅速な行動ができるよう、企業間の防災連絡網を用意しましょう。
- ④ 備蓄品の用意!
一定期間、自社施設で待機できるよう、企業ごとに非常食や生活物資を用意しておきましょう。
- ⑤ BCPの策定!
災害によるリスクを最小限に抑え、事業の復旧・継続のための準備をしましょう。
- ⑥ 帰宅困難者への対策!
災害時、自社施設内で待機できるよう、日頃から用意しておきましょう。

災害時

- ① まずは情報収集!
迅速で適切な行動ができるよう、まずは情報を収集しましょう。
- ② 広い場所や一時避難場所へ!
地震発生時は、広い場所や一時避難場所へ避難をしましょう。
- ③ 津波情報が出たら、海から遠く、高い場所へ!
津波情報が出たら、海から遠く、高い場所へ避難。危険が迫っている場合は最近近い建物の階上へ避難しましょう。
- ④ 乗り合わせて避難を!
車で避難する際は、自社社員や近くの人と乗り合わせて避難しましょう。
- ⑤ 帰宅困難時は待機!
帰宅困難時は、むやみに移動せず自社施設内で待機しましょう。自社施設が使用できない場合は、一時待避所で待機しましょう。

新港地区 防災の心得

非常用 発電機 (燃料)	避難者の ための トイレ	港湾BCP イマフ と 合機連携	自販機 (非常用)
社員用 お風呂の 準備	BCP有 社員用 通知		

③ 防災無線
設置

避難所
の
状況

安全確認

情報収集
の
重要性

情報手段
の確認
必要

情報収集
の
重要性

自社員外
の
対応
(避難者)
の
備え

乗り合わせ
の
重要性